

1 全体計画

1 中期的目標と機能強化のコンセプト

中期的目標

1. 大学病院に遜色のない医療の提供
2. 全国に先駆けた地域包括医療システムの構築
3. 地域医療の全てに中核的責任を担う覚悟と実践
4. 学生、研修医等に対する実践的教育の充実
5. 磨かれた倫理観と使命感の共有

機能強化のコンセプト

災害発生や感染症拡大など非常時における傷病から住民の生命を守る

疾病予防や健康回復等の機能を一層強化し、生活の質の向上に寄与する

病院と先端企業等との連携・交流を図る

脱炭素社会の実現に向け、蒲郡市ゼロカーボンシティ宣言を具現化する

医療データとデジタル技術を活用して、診療・治療、経営モデルを変革する

2 機能強化の全体像

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 診療スペースが狭隘化しており、プライバシーへの十分な配慮等により良好な診療環境の確保が必要 事務室等の職員スペースの十分な確保が必要 感染症拡大時や大規模災害時の大人数の患者を受け入れる診療環境及び医薬品等の保管場所の検討が必要 エレベータや特定天井の既存不適格解消工事が必要
整備の方向性	<p>(ア) 新棟建設</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療ニーズが高くなっている分野への機能強化 ②災害時の医療提供体制の充実強化 ③職員の福利厚生施設の充実 ④大学や民間企業等との連携を促進する臨床研究推進スペース等の確保 <p>(イ) 既存棟改修</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新棟に移設した機能の空きスペースを利用し、手狭になっているスペースの適正化 ②現在散在している職員の休憩スペースや外来受付等の集約整備の検討 <p>(ウ) 不適格</p> <ol style="list-style-type: none"> ①既存不適格解消工を行い、災害に備える

※既存不適格解消工事

盛り込む機能	整備内容	
新棟建設	外来診療	<ul style="list-style-type: none"> 既存棟から眼科(アイセンター)、産婦人科、小児心理発達・精神科の移設
	生理検査	<ul style="list-style-type: none"> 既存棟からの移設
	リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> 既存棟からの移設及びスペースの拡張 災害時や感染拡大時の転用
	健診	<ul style="list-style-type: none"> 既存棟からの移設 災害時や感染拡大時の転用
	管理	<ul style="list-style-type: none"> 既存棟から医局等の移設 職員の福利厚生施設の整備 災害時や感染拡大時の転用
	臨床研究推進	<ul style="list-style-type: none"> 新設
既存棟改修	その他	<ul style="list-style-type: none"> ユーティリティスペースを設置(救護訓練や玉突き的な改修工事の際に使用) 災害時や感染拡大時の転用
	救急	<ul style="list-style-type: none"> スペース拡張による診察や処置エリアの区分け等、診療環境の改善とプライバシーの保護強化 非感染者と感染症患者及び感染症疑いの患者動線の分離
	内視鏡	<ul style="list-style-type: none"> スペース拡張による内視鏡室の増設とリカバリー室の確保
	化学療法	<ul style="list-style-type: none"> スペース拡張によるベッド及びチェアの増設
	外来診療	<ul style="list-style-type: none"> 各診療科の診療スペースの適正化 ブロック受付の集約化検討
	中央処置	<ul style="list-style-type: none"> スペース拡張によるプライバシーの保護強化
新棟	患者支援	<ul style="list-style-type: none"> スペース拡張による相談エリアの個室化等のプライバシー保護強化
	ME	<ul style="list-style-type: none"> スペースの拡張
	血管造影	<ul style="list-style-type: none"> 増設
不適格	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法に基づく天井脱落対策 建築基準法に基づくエレベータの安全装置等の取り付け 	

2 部門計画

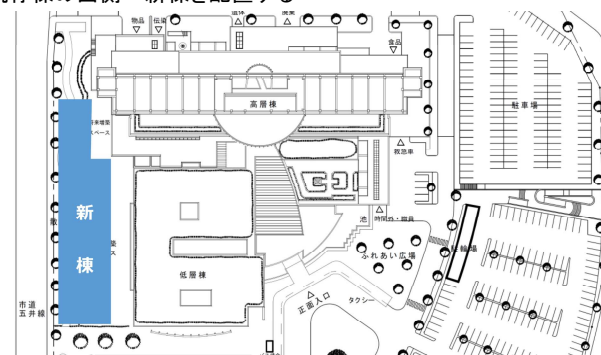
- 新棟7部門、既存棟8部門の全15部門を整備する

新棟	外来診療(アイセンター、産婦人科外来、小児心理発達・精神科外来)、生理検査、リハビリテーション、健診、管理(医局関連、集合更衣室、講堂等)、臨床研究推進、その他(救護訓練スペース等)
既存棟	救急、内視鏡、化学療法、外来診療、中央処置、患者支援センター、MEセンター、血管造影

3 施設整備計画

1 配置計画

- 既存棟の西側へ新棟を配置する



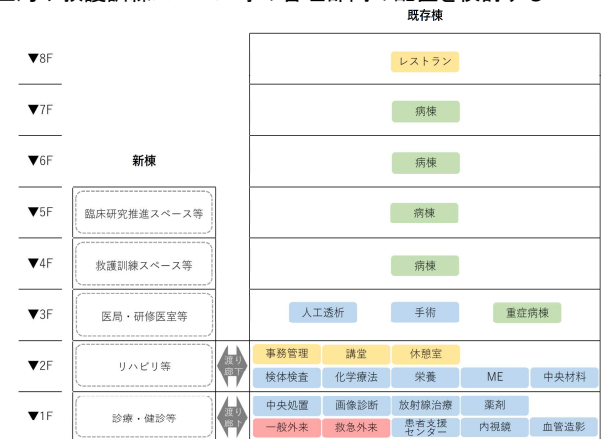
2 建築計画

(1) 建築規模

- 延床面積: 約9,000㎡
- 階数: 5階建

(2) 階層計画

- 新棟の低層階には診療部門や健診センターを配置し、上層階には、医局や救護訓練スペース等の管理部門の配置を検討する



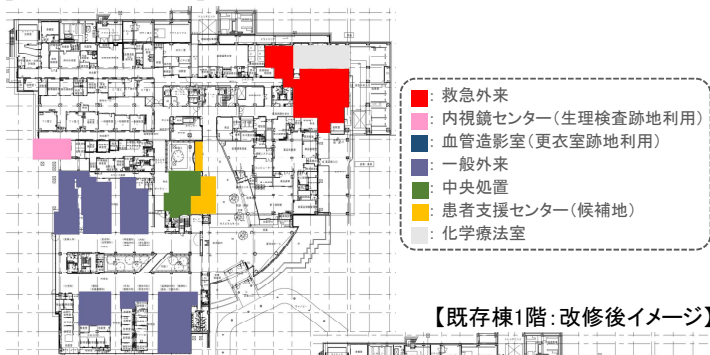
※イメージ図は現時点の想定であり、今後検討を進める中で変更することも考えられる

(3) 接続計画

- 新棟は、1階(4か所)及び2階(2か所)で既存棟と接続を想定する

3 改修計画

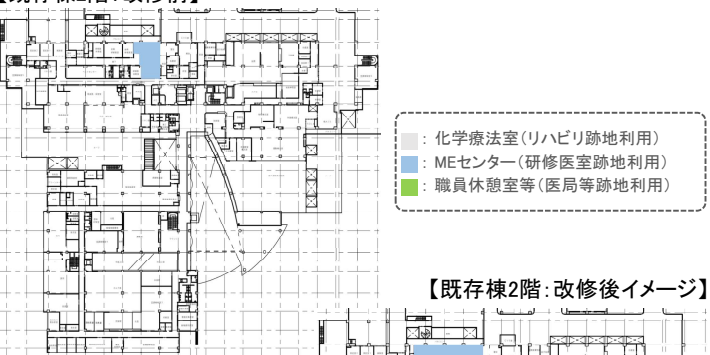
【既存棟1階:改修前】



【既存棟1階:改修後イメージ】



【既存棟2階:改修前】



【既存棟2階:改修後イメージ】



4 災害計画

- あらゆる災害における人命救助活動を支える社会インフラとしての役割を果たすことを想定し、タイムラインを含めて計画する
- 災害時の患者収容スペースや災害対策本部設置スペース等は、平時の空間用途からの切り替えを想定して整備する

階	平常時	災害時の切り替え
3 階	講堂	災害対策本部室
	ユーティリティスペース1	支援看護師の休憩・宿泊室
	ユーティリティスペース2	在宅酸素利用者・要介護者収容スペース
	ユーティリティスペース3	行政支援者の休憩・宿泊室
	救護訓練スペース	行政支援者の休憩・宿泊室
	研修・シミュレーションセンター	医師等の休憩・宿泊室
	職員休憩室	DMAT等の休憩・宿泊室
2 階	リハビリテーション	患者治療スペース
1 階	健診センター	患者治療スペース 隔離診察室

5 ゼロカーボン計画

- 蒲郡市では2021年3月に、「ゼロカーボンシティ」を宣言し、LED化等の省エネルギーの促進、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入、次世代自動車や木材利用、サーキュラーエコノミーの普及促進等を掲げている
- 脱炭素社会の実現に向け、低炭素のエネルギー源である再生可能エネルギーシステムの導入の検討や、消費するエネルギーを減らす「省エネ」、クリーンなエネルギーを創る「創エネ」、様々なエネルギーシステムで非常時に備える「蓄エネ」等の対応検討を進める

4 医療機器・医療情報システム整備計画

1 医療機器

- 現有の使用可能な医療機器は極力移設を実施する
- 部門間での共同利用が可能な機器は共用化を検討し、効率的に配置・整備する
- 新棟建設と既存棟改修のスケジュールに合わせた段階的な年次更新計画により、投資、減価償却費、更新時期の平準化を図り、病院経営への影響を軽減する

2 医療情報システム

- 新棟の整備に伴い、患者サービスの向上や業務の効率化、持続可能な経営・病院活動の維持を図るために、導入する医療情報システムの拡充やデジタル化の推進を図る
- システムの故障、停電等の障害発生時、自然災害等による機器類が破損した場合においても診療業務の継続が可能となるよう対策を講じる

5 事業計画

1 事業スケジュール

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
基本計画	➡					
基本設計	設計者選定 基本設計					
実施設計						
新棟建設		施行者選定 実施設計支援業務	工事	移転		
既存不適格解消工事						
既存棟改修						

2 事業費

項目	内容	概算事業費(百万円)
設計費	基本設計、実施設計、施工監理	180
	新棟(5階建 約9,000㎡)	4,060
建設工事費	既存棟改修費	500
	既存不適格解消	440
小計(税別)		5,180
医療機器整備費	血管造影装置、内視鏡機器 等	800
その他	デジタル化	100
小計(税別)		900
消費税	10%	608
合計(税込)		6,688

3 事業収支

- 国の医療計画や診療報酬改定の影響がある中でも、策定中の蒲郡市民病院経営強化プランに沿って、持続可能で安定的な経営を目指す

項目		機能強化対策10年後の目標
稼動実績	入院 急性期 267床(①) 地域包括ケア 115床(②) (合計382床)	災害拠点病院の指定、感染対策と治療の両立 機能評価係数の向上 病床利用率の上昇85%まで上昇(①) 手術件数の増加、診療単価の向上(60,000円)(①) 回復期として求められる病棟機能の充実(②) 病床利用率90%まで上昇(②)
	外来	延患者数170,000人まで増加、感染対策と治療の両立 紹介初診の増加 短期滞在手術、外来化学療法の増加、検査の充実による診療単価の向上(15,000円)
	予防 (健診 人間ドックを含む)	健診項目の充実、健診異常時の外来連携強化 人間ドック20人/日、健診40人/日
医業費用		病院機能強化に応じた医療職の適正配置 効率的な物品管理と経費削減
財務指標		持続可能な経営・病院活動の維持 医業活動による収益向上